

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



勝間なんきんの故郷「こつま」を歩く ～元祖たこ焼きから生根神社、玉出商店街まで～

玉出は生根神社付近の小学(こあざ)の名称で以前は勝間(こつま)と呼ばれていました。古代の玉出遺跡に、住吉大社の神領だった生根神社など、大阪でも有数の古い歴史を持ち、江戸時代から戦前にかけては勝間南瓜、勝間木綿、勝間凧といった名産物で栄えました。元祖たこ焼きの名店や手作り味噌、煎餅、焼酎、和菓子、パンなど下町らしい庶民グルメにも注目！

● 勝間(こつま)
「こつま」は木妻、古妻、古夫、勝玉とも書きました。地名の由来としては、仁治年間(1240～1243)に勝間大連という人物が大海神社周辺の人口増加に伴い、現在の生根神社周辺を開拓し、住吉大社の神領と位置付けて移住したからという説と、勝玉の里(かつたまのさと)が訛ったという説などがあります。

● 勝間南瓜
なにわ伝統野菜で、天文17年(1548)に記録があります。万延元年(1860)に勝間村の庄屋、百姓らが天満青物市場の行司あてに野菜7品に限り同村内での立売許可願を申し出ましたが、その中にも南瓜と記載されています。果実は小さいものの美味で勝間村の特産品として、戦前まで生産されました。しかし都市化の影響や西洋カボチャの進出によって廃れてしまいました。

● 勝間木綿
勝間村の名産で、寛永13年(1636)に綿栽培の記録があります。品質が良く、生産量も多かったため、上方の木綿相場を支配した時代もありました。井原西鶴の『西鶴織留』には「ふんどしの材料に勝間木綿をつるすのも恥ずかしからず」といった記載があり、品質の良さを物語っています。

● 勝間凧(こつまいか)
起源は幕末で明治から大正にかけて英国や米国への輸出品として製作されました。最盛期には年間100万枚を製造。シカゴ万博(明治26年)や、パリ万博(明治33年)にも出品されるなど、日本を代表する美術産品でした。しかし明治中期からカラー印刷による大量生産がはじまり、また跡継ぎ職人がいなくなったため、戦前には製作されなくなりました。絵柄や色彩も豊富で、現在、大阪城天守閣に収蔵されています。



10 玉出木村屋 Deux(ドゥ)
平成16年(2004)、本店での「小売終了」のために、新たに設けられたお店です。「玉出木村屋」は明治39年(1906)創業のパン屋です。酒種あんぱんは自社であんこを炊くほどのこだわり逸品で、日本全国のデパ地下に出店。全国にファンがいる、大阪を代表するパンの名店です。

9 玉出商店街
南海本線岸里玉出駅から国道26号線の玉出中1交差点までを結ぶ玉出本通商店街、一筋北にある玉新本通、両商店街を結ぶ玉二商店街があります。玉出本通商店街は激安で有名なスーパー玉出の発祥地としても知られています。

8 千慕里庵(株式会社 京屋本舗)
元はお茶屋でしたが和菓子屋へ業務転換。その後、洋菓子を手掛けて、現在は洋菓子中心のお店です。甘さ控えめの手作りプリンや、生根神社と共同開発した銘菓「こつまなんきん」が名物です。

7 たからや本舗
昭和27年(1952)創業の煎餅屋です。昔ながらの手作り・手焼き製法で、平成10年(1998)には市民がえらんだこだわりの店に選ばれました。鈴焼きカステラのモチモチ感がたまりません。

6 肥塚味噌株式会社
元々は、浪速区戎本町で創業された「あぼし味噌株式会社」の「玉出工場」でした。昭和24年(1949)に分離独立を果たしました。昔ながらの低温仕込で、1年かけて醸造される味噌は「天然醸造味噌」として、大阪市内の卸売市場へ出店・販売されています。品質と味の良さが高く評価され、平成9年(1997)と平成11年(1999)には全国味噌鑑評会で賞を受賞しています。

5 玉出中学校(玉出遺跡)
昭和28年(1953)設立。昭和31年(1956)、生物クラブの教諭の指導の下、20数名の生徒が、学校東側の地下鉄四つ橋線(岸里～玉出間)の延伸工事の現場で掘り出される土砂の中に、土器や貝類があるのを見つけました。以来1年間、生徒が工事現場へ行き、それぞれの深さの土砂を掘り、水洗いして選出し、調べた結果、約80種類の貝類をはじめ、紀元前1世紀から奈良時代までの土器30数点を発見。その中には墨書人面土器とよばれる珍しい土器も含まれていました。発掘物は現在、校内に保管されています。

4 吉祥山光福寺
嘉祥元年(848)、小野篁の発願で奈良興福寺別院として創建。元応元年(1319)、信徒の要請で現在地へ移されて光福寺と改め、元弘2年(1332)に真宗寺院となりました。江戸時代には勝間御堂と称され、当時は大名と同等の資格を有したと言われていました。昭和20年(1945)に戦災に遭い、現在の寺院は昭和28年(1953)に再建されたものです。

1 会津屋(玉出本店)
昭和8年(1933)に今里で創業。当初はメリケン粉にコンニャクや天カスを入れて焼くラジオ焼の屋台でしたが、昭和10年(1935)に明石の玉子焼をヒントにたこ焼きを考案。大阪のたこ焼きの発祥店と言われています。紅しょうが、ソース、青海苔を使用せず、現在のたこ焼きより一回り小さいサイズなのが特徴です。平成5年(1993)に今里から現在地に移りました。

2 世界のお酒 ニューヨーク(株式会社足立)
平成元年(1989)創業。お酒の総合専門店大阪屈指の品揃えの店と評判です。勝間南瓜の種子が発見されたことを受けて玉出地区のまちおこしに貢献したいと「こつまなんきん焼酎」を開発。現在では天王寺蕪や田辺大根の焼酎も開発・販売されています。

3 生根神社
創建は不詳です。社伝によれば蛭児命を祀る有喜恵美寿社でしたが、住吉・生根神社の少彦名命の御分霊を受けて、勝間村(玉出)の産土神として奉祀しました。また明治4年(1871)の廃藩置県の際に、筑前の黒田藩大阪蔵屋敷にあった筑紫天満宮(上の天神)を遷したのが菅原道真も奉祀されています。毎年、冬至に勝間南瓜祭を開催しています。また夏祭(7月24日、25日)には「だいがく」が出ます。貞観15年(873)に一帯が早魃に遭い、御神燈と鈴をつけた高さ28間(約20メートル)の櫓を建てて祈願をすと大雨が降りました。以後、地域住民たちは櫓に台(=台築)をつけて練り歩き、これが「だいがく」の始まりといわれます。江戸末期には玉出に14基ありましたが、時代の流れ(戦災等)で消失して、現在は1基(大阪府指定有形文化財)のみです。